

近江神宮の昭和祭

かとうただを
加藤忠郎

令和五年四月二十九日、滋賀縣の近江神宮にて行はれし「昭和祭」に昇殿參拜せり。近江神宮は天智天皇六年（六六七年）に同天皇が當地に近江大津宮を營み、飛鳥から遷都せし由緒に因み、紀元二六〇〇年の佳節にあたる昭和十五年十一月七日、天智天皇を祭神として創祀され、官幣大社に列せらる。毎年四月二十九日には「昭和祭」が執り行はる。

昭和六十四年一月七日の昭和天皇崩御の後、それまでの天皇誕生日たりし四月二十九日を「生物學者であり自然を愛せし昭和天皇を偲ぶ日」として「緑の日」とすることとなり。されど、實際に制定されたる法律にては、昭和天皇を偲ぶという趣旨は盛り込まれざりき。このため、「昭和の日」に改稱する法律案が超黨派の國會議員により提出され、數度の廢案の後に平成十一年に成立、平成十三年より四月二十九日を「昭和の日」とし、みどりの日は五月四日となれり。

日本で初めて水時計（漏刻）を設置せし天智天皇を祀る神社として昭和十六年の時の記念日（六月十日）に第一回漏刻祭が開催され、例年行事となれり。境内には各地の時計業者が寄進せし日時計や漏刻（レプリカ）などが設けてあり、時計館寶物館と近江時計眼鏡寶飾専門學校が境内に併設されをり。

「昭和祭」は午前十一時に齋行され、修祓、宮司一拜、開扉、神饌供す、宮司祝詞、國歌奉奏、宮司玉串奉りて拜禮、參列者玉串奉りて拜禮、神饌を撤す、閉扉、宮司一拜、と儀式は滞りなく進み、最後に宮司が挨拶。扉は大きな菊の御紋章の附きし扉。國歌は昨年はコロナの爲無言で心の中に歌へりと聞く。今年は聲に出して歌へり。「參列者玉串奉りて拜禮」にては十五名を代表し四名が玉串を奉れり。予も三番目に奉らさせて戴けり。

終了後は境内にある「善庵」にて直來。十割手打ち蕎麦を戴く。四番目に代表拜禮せし防衛大學校を卒業せし海上自衛隊の幹部候補生が前に座りたれば、いろいろ話をせり。防衛大學校にては毎年大隊對抗戦「棒倒し」の競技が行はるる由。小學校六年生の定番たりし運動會にての「棒倒し」は大分前に廢止されたるは残念なり。（令和五年五月一日受附）